

# 中外炉工業

## 熱処理設備など相次ぎ受注

### 半導体関連需要増に対応

鉄鋼・非鉄金属加熱炉や熱処理炉などを手掛ける工業炉メーカー、中外炉工業（本社・大阪市中央区、社長・尾崎彰氏）は半導体関連の熱処理設備や火炎内処理設備を相次ぎ受注している。今後は半導体関連の新規顧客のさらなる開拓を進めるべく、人員を増強して旺盛な需要に対応していく方針。

同社は成長が見込まれる半導体業界の新規顧客を開拓している。半導体関連治具のカーボン用高温焼成炉や、ファインセラミックス用ホットプレス、FPD（フラットパネルディスプレイ）用装置技術を応用したICパッケージ用クリーンオーブンなどを提案し、成約件数を増やしている。

また、純酸素燃焼バーナーの高温火炎を利用した火炎内処理設備「INFLAZ」は、粉体の球状化や噴霧焼成を対象に製品の歩留まり・品質向上につながるため、電子部品や半導体材料向け熱処理設備として実績を積み重ねている。このほど開催した中間決算発表では、2026年度を最終とする5カ年の中

期計画の経営ビジョン「自らを変革し、カーボンニュートラル技術で未来をひらく！」に関して、既存商品のニーズ適合ブラッシュアップによる拡販と利益向上を図るとして、半導体関連の熱処理設備などの受注増に触れ、「今後の需要増に対応するためにさらなる増員を図っていく」（同社）とした。